

子育て「3つの目」を持つ教師に

人間開発学部長 しんとみ やすひさ 新富 康央



子どもたちの健やかな成長への祈りを込めて、学生達には「3つの目」を提案しています。「3つの目」とは、「見つめる目、見つける目、見守る目」です。

「子どものよさを見つける」ことは大事です。しかし、実践することは困難です。「よさ」を見つける前に、子どものすべてを受け容れようとする「見つめる目」が必要不可欠です。愛されたい、信頼されたい、人の役に立ちたいという思いを、子どもたちは持っています。「見つめる目」とは、その子の出来—不出来と関係なく、どの子も伸ばしたいという気持ちを内在的に持っていることを認め、信頼を置き、マイナス面も「救う目」で、プラスに転化して見ることです。

「ナメクジは 殻持たぬゆえ 疎まれる」

かたつむりとナメクジは生物学上、同じマイマイ目に分類されます。かたつむりは、美しい殻を持っているが故に、童謡にも歌われます。他方、ナメクジは、塩を持って追われます。すなわち、子どもたちも見方一つで、かたつむりにも、ナメクジにもなります。美しい殻を付けてやれば、どの子も、かたつむり

になります。美しい殻を付けてやれば、どの子も、かたつむりになります。殻を付けるのは大人の役目です。

マイナス面も、どうすればプラスに変えることができるか。この「救う目」で子どもを評価しようとする姿勢を、「見つめる目」と呼んでいます。「見つめる目」によって、その子の「よさ」も見つかります。乱暴な子どもも「見つめる目」で見れば、「元氣闊達な子」になります。そこから、その子のもつ「よさ」が見つかります(見つける目)。いつもどこにいるか分からないような大人しい子どもは、「見つめる目」で見れば「慎重な子」ということになります。そこから、その子の「よさ」に気づき(見つける目)、その子の見つけた「よさ」を伸ばす指導(見守る目)が、始まるのです。

人間開発学部の学生たちが、「教育インターンシップ」等で出会った子どもたちの人間変容に触れることで、「3つの目」とりわけ「見つめる目」を持った教師に育ってくれることを願っています。先生方のご指導に、心より感謝申し上げます。

確かな地域連携をめざして

教育実践総合センター長 しばた やすゆき 柴田 保之



平成25年度より、教育実践総合センター長を拝命した初等教育学科の柴田保之です。

平成21年の人間開発学部の誕生とともに出発したこの教育実践総合センターは、1期生を社会に送り出し、周回軌道をようやく一回りしたところです。1巡目の歩みは、道なき荒野、あるいは足跡一つない雪原を行くものでしたが、今日の前には、しっかり踏み固められた道があります。まずは、その道からはずれてしまわぬように、そして、2巡目からくわわった子ども支援学科の仲間たちとともに、その道をより確かなものにしていけたらと思います。

このセンターの役割のいちばん大きなものは、教育実践を通じた地域との連携です。学生や教職員が積極的に地域に出て学ぶとともに、地域の様々な方をキャンパスにお迎えするという相互の交流によって生まれるものを大切にしていきたいと考えております。

センターの取り組みの中で、地域連携の一つの柱は、学生が地域に出ていく教育インターンシップや教育や保育のボラン

ティアです。キャンパスの中に閉じこもっているだけでは得られない体験的な学びを重ね、学生たちは地域の力で着実に育てられてまいりました。

また、もう一つの柱は、大学に実践現場の先生方をお招きする夏季教育講座です。毎年、テーマを変えて開催してまいりましたが、今年は理科実践フォーラムを開催いたします。理科教育の見直しが叫ばれている中、実り多いフォーラムになれば幸いです。

また、秋には、共育フェスティバルも予定されております。本年より、このセンターも積極的に関わっていくこととなりました。さらにもう一つご報告があります。それは、新しくスタートした子ども支援学科の、地域との連携を確立するために、子ども支援学科の廣井先生と山瀬先生が曜日と時間を決めてセンターに常駐して、幼児の教育や保育の側面からの地域連携の具体的なかたちを探っていくことになりました。

どうぞ、教育実践総合センターを今後ともよろしく願いいたします。

教育実践総合センター事業の主な取り組み

本センターは、「教育」「研究」「社会貢献」の三分野における実践研究指導センターとして、教育インターンシップや教育実習等の支援を主に行う「学生支援領域」と、地域の教育関係諸機関や現職教員との連携の支援を主に行う「地域教育支援領域」について行っています。

教育実習

学校現場での実習から多くのことを学びました

教育実習

初等教育学科 4年 増井 可南子

今回の教育実習は、特に生徒との信頼関係の築き方に重点をおいて臨んだ。担当は中学2年生、教科は国語で二週間の実習をさせて頂いた。

私が実習中に注意したことは、生徒と友達関係にならないことである。教師と生徒としての関係性を保ちつつ信頼関係を築くことができるかは、教師の小さな行動や姿勢に懸かっているということ、私は今回の実習で強く実感した。

小学生に比べ、多感な時期にある中学生とは実習中にぶつかることが何度かあった。掃除をさぼっている子や授業に集中しない子には必ず声をかけて事情を聞き注意をしたが、度々反抗的な態度をされた。確かに初めは少し落ち込んだが、小さな言動においてもダメなことについてはしっかりと注意し、生徒に理解させることが生徒自身のためであり且つ教師の役割であると考え、反抗されても色々な場面で忍耐強く声をかけ続けた。

そんな私の行動を生徒達はよく見ていて、ある日、他の生徒に「ちゃんと注意してくれる先生はとても素敵。」と言われたのである。その時初めて、教師の行動や姿勢を子どもたちはよく観察していて、そこから少しずつ教師と生徒の信頼関係が生まれていくのだと感じた。

また、反抗的だった生徒たちも最終日には「色々言っただけど、いい先生だったよ。早く先生になって帰ってこいよ。」と温かい言葉をかけてくれたのである。

教師は自分が傷つくことを恐れて子どもにぶつかっていくことを諦めてはならない。どんなに教師が生徒を強く叱ろうとも、教師が愛情をもって生徒に接し、些細な気配りや声かけをすることで、教師の好意的な姿勢は生徒に届くのだということを今回の実習で実感することができた。

私はこの二週間の経験を糧に、今後も自己研鑽に励み、子どもと望ましい信頼関係を築くことのできる教師になりたい。

教育実習～夢に向かって

初等教育学科 3年 川口 貴之

私は、国立第七小学校で教育実習を行いました。実習先が母校ではないこと、同じ夢を持つ仲間よりも一足先に実習を行うことに不安を感じていました。また、教育実習直前まで、私は教師になりたいのか、なれるのだろうか悩んでいました。しかし、実際に教育実習が始まると、校長先生や副校長先生、指導教官をはじめとした教職員の皆様に温かく見守っていただき、自分に分からないことがあると声をかけてくださるなど多くの先生方に指導していただきました。本当に恵まれた環境で教育実習を行うことができたと思います。

担当した3年生は、低学年からあがったばかりで、私はどう接すればいいのかということに不安を感じ、悩んでいました。しかし、子ども達から積極的に話しかけてくれ、さらには毎朝の健康観察を担当させていただいたので、子ども達を常に観察しその様子を毎日丁寧に見取ることができました。教育実習後には、子ども達全員と自然と話せるようになったと実感しています。

実習で学べたことの一つ目は、子ども達をどのように指導していくかです。教師は全てを教えるものだと私は思っていました。精神的にも身体的にも成長過程にある3年生だからとそう思っていました。しかし、子ども達の自主性をどう高めるのか、子ども達にどう気付けさせるかということが重要であり、そうすることで考える力がついていくことを知りました。1ヶ月の間でも、子ども達は見る見るうちに自分で考え行動していけるようになりました。


二つ目に、学級経営の楽しさについて感じる事ができました。全クラスを参観させていただきましたが、学級経営の方法は様々でした。私も、自分の児童観をもち、「小さいことでも夢を持てる」子どもを育てたいと心から思いました。

私は教育実習を終えた今、教師になりたいと心から思えるようになりました。子ども達と接すること、子ども達を育てたいということに強く興味を抱くことができました。これから先はまだまだたくさん困難があると思いますが、夢に向かって頑張っていきたいと思えます。

未来塾

「人間開発は人づくり」をモットーに！

教育実践総合センター学生支援事業としてスタートした「未来(みらい)塾」は、今年度も以下の講座が開講されています。自分の課題に応じて講座を選択し、積極的に受講することを願っています。

講座名	担当	開講場所・開講期間
高山真琴先生の「ピアノ」講座 A「ピアノ講座」(ピアノ初心者用) B「幼稚園実習対策ピアノ講座」(4年次幼稚園実習受講者対象) C「教員採用試験対策ピアノ講座」(次年度教員採用試験受験者対象) D「保育士資格取得対策ピアノ講座」(保育士資格取得見込み者対象)	高山 真琴 准教授	1号館音楽室他 各目的終了期まで 
上口孝文先生の「柔道基礎力養成」講座(昇段に向けての通年講座)	上口 孝文 教授	体育館柔道場 4月13日～11月16日 毎週土曜日2限
一正孝先生の A「テニスの審判を目指して」講座 B「体育・スポーツ健康関連雑誌交読会」講座	一 正孝 教授	Aテニスコート、5月～9月 B一正孝研究室、5月～通年
山瀬範子先生の「保育教材研究」講座	山瀬 範子 専任講師	6月～通年
吉永安里先生の「わかる！できる!!国語授業づくり」講座	吉永 安里 助教	6月～通年
阿部弘生先生の「杖道・居合道実践」講座	阿部 弘生 助手	体育館剣道場 通年
原英喜先生、木村一彦先生の 「臨海学校見学と小遠泳体験」講座	原 英喜 教授 木村 一彦 兼任講師	千葉南房総市 8月に1泊2日
原英喜先生の「泳げるようになろう」講座	原 英喜 教授	横浜国際プール 7月～10月

平成25年度からのスタッフを紹介します

◆教育実践総合センターセンター長 柴田 保之
教育実践総合センター副センター長 高山 真琴
教育実践総合センター専門研究員 小笠原優子

◆教育インターンシップ担当教員
夏秋 英房 教授
伊藤 英之 助教
小笠原優子 専門研究員

◆教育実践総合センター運営委員会メンバー
柴田 保之 センター長 高山 真琴 副センター長
猿田 祐嗣 教授 植原 吉朗 教授
結城 孝治 准教授 廣井 雄一 助教
小笠原優子 専門研究員

25年度は、このスタッフでスタートを切りました。
地域の教育機関や教育関係者との連携をもとに、学生支援や地域社会の教育実践支援の充実をめざしていきます。